

コラム

横行するブラックバイト

龍谷大学就職ガイダンスに参加して

金融労連書記長 田畑俊郎

10月27日、龍谷大学で行われた「第9回就職に関する講演会」に今年も参加した。参加された学生は約60人ということだった。この講演会には、例年参加させてもらっている。

講演では、中京大学国際教養部の大内裕和教授が「今の学生は、仕送りも減らされ、自由に使える生活費が1日1千円を割りこみ、15年ほど前の半分以下。学生の中で高収入のはずだった家庭教師のバイト料も我々の学生時代の半分以下の時給1500円にまで落ち込んでいる。学業と両立を求められる学生が、時間的に自由が利くフリーターの増加でバイト料のダンピング競争に苦しめられている」として、「学生のアルバイトがブラック化し、授業やゼミ合宿に参加できないだけでなく、試験を受けられずに単位取得にまで大きな影響を与えている」と、大学授業崩壊の恐るべき実態を報告されていた。

同氏は「卒業後も奨学金の返済負担で正社員として就職しても長期にわたって結婚できない状況に陥っている」若者にとって生きづらい社会の現実と日本の将来に厳しい警鐘を鳴らした。奨学金問題に取り組んできた同氏によれば、インターネットで「ヤフー知恵袋」を開いて「奨学金 結婚」と入力すれば、生々しい実態があふれるほど多くの人から寄せられているとのことだ。

講演後、金融・公務員・民間企業営業・マスコミ・航空関係の各ブースに分かれて説明や質疑応答が行われ、私は昨年引き続き金融のブースに出席し、「金融機関がブラック企業化しないよう労働組合が頑張っている」職場実態の報告や「あせるな、我慢するな、ひとりで悩みを抱えるな」など先輩として具体的な事例や体験をまじえてアドバイスを行った。

今まで、「就職しても、学生時代に培ってきた『おかしいと思うことを忘れるな』『汚い大人社会に慣れるな、染まるな』」などと学生諸君にエールを送り続けてきたが、学生時代から無権利状態のブラックバイトに身を置けば、そんなエールなど通用するはずもないだろう。

学園祭を目前に控えながら夕方のキャンパスには例年より学生の姿が少なく、ここ数年増加傾向にあったこの講演会への参加者も昨年を下回る状況だ。夕方～夜にかけての時間は、多くの学生がバイトに励



んでいる時間なのだろう。勉強と両立させてもらえない低賃金・長時間・無権利状態のブラックバイトに直面している学生の「貧困」を、色濃く反映しているのかと痛感させられた。

リストラや年金改悪などで、子どもへの仕送りを減らさなければならぬ親たちに、卒業後、子どもの奨学金返済まで、重くのしかかろうとしている。